

列王記第一 12 章 1-11 節「親切なことばかけを」

小池 宏明 牧師

主なる神様によってソロモン王の罪が指摘され、王国が分裂することが予告された。ソロモン王の死後すぐに王国は南北に分かれてしまった。それは、主なる神様が仕向けられたことでもあった。王国分裂の過程から主の御心を確認したい。

*主に聴かず勝手な判断が減びに至る

レハブアムはソロモンの息子で、ソロモンが召された後王位に就いた。ヤロブアムは、ソロモン時代の有能で勤勉な右腕だった。多くの民は、このヤロブアムを支持して、新しい王レハブアムに重い税金と過酷な労働の軽減を求めた。レハブアム王はおもだった家臣たちに相談して助言を求めた。経験豊富なソロモン時代からの長老たちは、民の心を掴むために大切なことは「民に仕えるしもべになること」、「親切な言葉かけをすること」を助言した。この助言は主イエス様の教えと通じるものだった。しかし、レハブアムは端から長老たちの意見を採用する気はなかった。レハブアムは、続いて若者たちに相談した。10-11 節「彼とともに育った若者たちは答えた。『あなたの父上は私たちのくびきを重くしました。けれども、あなたはそれを軽くしてください』と言ってきたこの民には、こう答えたらよいでしょう。彼らにこう言いなさい。『私の小指は父の腰よりも太い。私の父がおまえたちに重いくびきを負わせたのであれば、私はおまえたちのくびきをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのであれば、私はサソリでおまえたちを懲らしめる』と。」レハブアムはこの助言を採用して民に告げた。多くの民とヤロブアムは反発して、ダビデ、ソロモンと受け継がれて来た王国は、北イスラエル王国と南ユダ王国に分かれてしまった。

*仕えるリーダーを目指して

このような分裂の過程から、イエス様の御ことばを教訓として覚えたい。主イエス様は弟子たちに語られた。「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」(マルコの福音書 10 章 43-45 節) 私たちは救い主イエス様のいのちの代価によって生かされている者として、主イエス様のしもべとして仕え、隣り人のしもべとして仕える歩みをおささげしたい。